

# 人類の究極の危機

からの

# 神聖な救助

最後の預言者に耳を傾ける



キャサリン テイラー





# 人類の究極の危機からの神聖な救助

発行者: worshipJehovah.org

Copyright © 2011 worshipJehovah.org

All rights reserved

表紙画像: Copyright © worshipJehovah.org

翻訳で利用できる:

アラビア語、ベンガル語、中国語、オランダ語、英語、フランス語、ドイツ語、ヒンディー語、インドネシア語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語（欧州&ラテンアメリカ）、ロシア語、タイ語

[www.worshipJehovah.com](http://www.worshipJehovah.com) 経由

*worshipJehovah.org* は、どの宗教に関連付けられていません

## 著作権表示

本文書については、一部あるいは全部の複写、発行、配布、およびその特定の二次的著作物の作成、複写、発行、配布は認められていますが、その場合、かかる複写物や派生著作物すべてに対し、上記の著作権表示および本著作権の認可を掲載することが必須条件となります。本著作権の許諾可能な派生著作物は以下に限られます:

- I. (ドキュメントの注釈版など) 解説や説明を行うために本文書の全部もしくは一部を含む著作物
- II. アクセス向上のための機能を盛り込むために、本文書の全部もしくは一部を含む著作物
- III. 本文書を英語以外の言語に翻訳したもの、別のフォーマットに転換したもの
- IV. 機能を内部に実装する(例えば、全部もしくは一部をコピー&ペーストするなど)ことによって、規格準拠製品に本仕様を活用した著作物

但し、英語以外の言語への翻訳や、別のフォーマットへの転換に必要な場合を除き、本文書の内容は、いかなる方法においても変更したり、著作権表示を除去したりすることは許可されません。

上記の限定的許諾は永続的なものであり、著者もしくは [worshipJehovah.org](http://worshipJehovah.org)、その後継者や譲受人によって取り消されることはありません。

Divine Rescue from Mankind's Final Crisis

Edition 2.00 (Japanese) PDF

imp 19<sup>th</sup> Feb 2014



# 目次

献呈	i
序言	iii
第1部 - 確信をもてる理由	1
はじめに	3
夜明け…	4
神の介在	8
霧を取り払う	11
聖書のテーマ	17
最後の預言者	23
私たちの接し方	29
…まとめ	35
第2部 - 私たちの祈りに応える	37
私たちの祈りと 神の反応	39
神聖な救助	46
安全	46
明確さ	48
真の救済	55
審判と啓示	59
生命に取り組む	66
…まとめ	69
第3部 - 神の介在 における私たちの役割	71
感謝	73
私たちはいつ 呼びかけますか?	76
私たちの稀で神聖なる特権	80
補遺	86
参考文献	88



# 献呈

万能なる神

יהוה

天にましますわれらが父に、

そして神の情けを知るすべての人の平穩のためにこれを捧げます。



# 序言

この著作は、この困難な時代に良き報せをもたらします。

気候変動危機は現在、人類にとっての究極の脅威であり、これまでに人類が直面したどの脅威よりも危険なものとして認知されています。史上初めて、人類の存続が終焉する兆しが見えてきています。

このぞっとするような悟りとともに、心配する必要がないほどずっと遠い未来に起こるであろうと私たちが信じきっていた天からの審判が、現実的な心配事となりました。しかし、こうして危険が私たちに迫ってきたことで、生活に対する過去の安心感や確信といったものは、私たちを安楽に感じさせてくれる効力を失いました。

この本は、人類がこうした局面に到達するであろうことを、いかに天が長期間予期していたかを説明します。信条や宗教ではなく、人類が必要とすることにより、すべての人々に救いがもたらされるということ、そして、これまで怒りをもって戻るものとして残酷に表現されて

きた万能なる神が、実は喜んで私たちの助けの叫びに応えてくださることを示します。

気候変動危機は痛みをもたらすでしょうが、神による神聖な救助のおかげで私たちが生存し繁栄する間にも消滅するでしょう。





# 第 1 部

—

## 確信をもてる理由



# はじめに

子供の頃、私たちは皆、助けを求めたものです。それは迷子になったり、川に落ちたり、あるいは難しすぎることに挑戦した時のことだったかもしれません。助けを求めると、お父さんやお母さんが助けに来てくれたでしょう。

現在人類は、対処不可能なほどの困難に直面しています。さきほどの子供のように私たちも怯えており、助けが来ないと押し流されてしまうでしょう。人類という集団として、私たちにも助けを呼ぶことができる父がいます。そして彼は私たちを助けに来てくれるのです。

ですから、私たち全員が恐怖を取り除くための励みとなるのがこの本なのです。以下に続く章では気候変動危機について軽く触れ、続いて助けを求めるというのは一体どういうことなのか、助けを求めるのは誰なのか、そして私たちの将来には何が待ち受けているのかについて考えます。将来にはゆゆしく、また素晴らしい時が待ち受けています。

# 夜明け…

## 地平線に見える暖色の雲

新たな始めという明るい展望に満ちた 21 世紀が到来し、過去を振り返ってみると、私たちがどれだけのことを達成したかが明らかになりました。2 つの世界大戦を生き延び、核兵器戦争を回避し、病気を抑制することを学びました。ある程度の時間さえあれば、時折生じる自然大災害からでさえも回復することができました。

しかし私たちは、まったく別で世界規模の問題がある事にも徐々に気づきました。以前は豊作の穀倉地帯であったオーストラリアでの過酷な干ばつ、どんどん融け続ける氷河、そして怒り狂ったように振る舞う天気のニュースは、科学者が長年知っていたことを明らかにしました。つまり、世界の気候自体が危機に陥っているということ。

その問題はあまりにも想像を絶するため、しばらくはその重大性がなかなか把握されませんでした。私たちは、自分たちの世界は安定したものであると常に思い込んでいましたが、地球上の気候システム全体が暴走してしまうかもしれないという考えは、非常に恐ろしいものでした。

産業革命中に私たち自身がこの危機の種を蒔いたという実感がまた、私たちの平静を乱しました。私たちがこの危険に気づくには 200 年以上も要し、その期間私たちのライフスタイルが問題を悪化させました。この事実による衝撃は、私たちの意思決定能力に対する自信をこれまで以上に傷つけたのです。

## 遅い出発…

この後におとずれたのは安易な安心感でした。環境に生じた変異は、地質年代的な規模からいうとほんの一瞬にすぎないものの、それにもかかわらずその過程は私たちの目にはゆっくりしたものに映りました。

私たちは気候の変動に慣れてしまったのです。より深刻化する熱波や洪水は季節ごとに目の当たりにする驚くべき出来事と化し、私たちの領地の中を通過して移動するめずらしい動物の群れのようにとらえられたのです。私たちにとってそれは厄介なもの、心配は不要なことのように見えました。

その後極氷の凍解、到来しなかった雨季や大嵐について何度も耳にするようになりましたが、特に切迫感はありませんでした。結局のところ、これは物事がめまぐるしく変化することに慣れた社会にとって、もう一つの現状にすぎなかったのです。

しかし何か別のことが起きました。気候がこれ以上悪化するのを防止することに責任を取ろうとする人たちが現れ始めたのです。親切な心の持ち主たちはあらゆる努力を尽くすことを促しましたが、これは自分たちの生命に関する恐怖からではなく、苦痛にもがく惑星に対する親身な懸念によるものでした。これは人間の性質の美しい一面でした！物事を取ってばかりだった私たち人類は、自分から与えるようになったのです。

### …突然の悟り

しかし、こうした素晴らしい努力は十分ではありませんでした。私たちは、予期することも理解することも不可能な何物かと戦っていたのです。そして毎年のように生じる変動は、それまで気候に対して持っていた私たちの知識を書き換えていきました。もはや「根本的な原因」なるものは存在しませんでした。気候変動ははるか前に自己補給のプロセスを開始しており、私たちの生活パターンを改革するにはあまりに産業的すぎました。科学者と良識ある何百万人も一般市民の両方が、先に待ち受ける巨大な課題を見つめ、その全体像をはっきりと認識しました。

2000年の時点でその先10年の気候変動の全容を認識していたとすれ

ば、私たちは驚愕したことでしょう。新しい 10 年が始まるに際し、私たちはこの課題がより大きく問題化するだけでなく、それを無視することが不可能になるであろうことを理解していました。「移動中の群れ」のせいで、私たちが見晴らし良く安全にものを見渡せる場所がなくなるでしょう。これは戦争や金融危機とは異なります…この危機は強力で油断を許さず、私たちの手に負えるものではありません。これはあらゆる将来の危機の中でも最悪のもので、致命的なものなのです。

私たちが生き延びるとするならば、私たちの創造者からの早急な助けが必要になるでしょう。

# 神の介在

## 救助の源？

地球の創造者なら、間違いなく問題修復の力が十分あるでしょう！とはいうものの、万能なる神を巻き込むことについて、人々は複雑な感情を抱くのです。

### 不安

この懸念は、これまで宗教が熱烈に説いてきた「終焉」についての考えに関わっています。神の最後の介在を恐ろしいものとして描いていない信仰は、まずないに等しいでしょう。そのため多数の人が、次のような考えから、気候変動危機は神の思し召しの一部なのかもしれないという結論に達しました。

「聖書は世界の終焉がそのようなものであると説明していませんか？ ハルマゲドンでは？ 審判の日では？」

彼らは、環境崩壊が、神が不信者を壊滅させる前の意図的な気晴らしなのかもしれないと心配します。こうした考えは、

誰が神の目に適うのかという恐ろしい質問を投げかけ、そして次のような絶望的な質問を促します。

「私は十分に良き人であつただろうか？ 神はいずれにしろ私を救ってくださつただろうか？ 何をもって「唯一の真の宗教」と言えるのか？ どうすれば分かるのか？ 何を信じればいいのだろうか？」

私たちが助けを必要としているにもかかわらず、次のような恐れから、お願いを乞うことができない人がいます。

「これは、環境的な原因の代わりに神なる創始者による私たちの終焉を招くようなものではありませんか？」

気候変動危機だけでも十分大変なのに、神による助けを最も必要としているときに、神ご自身が私たちを見放されると想像しただけでも、無情で衝撃的な拒絶感を覚えます。

## 回復

しかし、私たちが地球を近視眼的に管理してきた結果として地球が苦しみにあえぐこととなり、私たちの生活は危険にさらされ、審判に対する心配が生じました。こうした状況こそ

が、神の名声にかかる霧を聖霊が折よく取り払うように促したのです。

「終焉の時」という考えは、2,000年近くにもわたりずっと間違っていて表現されてきたのです。万能なる神は私たちが救済のために一生重圧を感じることをお望みではありません。バベルのように複数の宗教が混在し対立する中、恩恵への道を隠し、無情であるという神の評判は、覆されました。

この危機的な時期は、誤った教えが散逸し、古く、一時はよく知られていた真実が再び現れるという啓発の時でもあります。その新鮮な明瞭さと共に、万能なる神とその介在に関する真実は、それが単純で同時に美しいものであることを示しています。

# 霧を取り払う

あらゆる宗教が、神を無情で報復的なものとして描いて来ました。それらの宗教は、神の介在は、限られた選ばれし者のみが生存できる「ハルマゲドン」の燃えさかる火を意味すると教えています。こうした誤った説教により、幾世代にもわたる人々が神による突如の殺戮に怯えて過ごすことになりました。

その結果、キリスト教徒の中には世界中の出来事を「黙示録」と照らし合わせて評価する人が出てきました。彼らは、神の怒りの鉢、「黙示録の四騎士」、そしてハルマゲドンの大戦の前兆の証拠を探し求めます。時間の流れの中で私たちがどこにいるのかを暗示する「隠された」標識を探すことで、彼らは神の到来の準備をし、偉大な日がおとずれる前に神の恩恵を被ることを確かにしようと望んでいます。

## タイミング…

しかし黙示録の出来事はまだ起こり始めていません。使徒ヨハネの著作であるこの黙示録では、次のように言われています：

## わたしは靈感によって主の日に来ていた<sup>[1]</sup>

黙示録 1:10

この主の日というキリストによる地球の支配は、未だに始まっていません。それに先立ち、天と地の前にして行われる偉大で紛れのない戴冠の行事があるため、誰もが私たちが新たな時代に突入していることを理解できるでしょう。

そのビジョンにあるものすべては、その以前ではなくキリストの統治下に起こります。怒りの鉢はまだ注がれておらず、ラッパも吹かれておらず、それぞれが持つ役目の条件が整っているにもかかわらず、四騎士はまだ乗り出していません。

サインの探索や唐突に壊滅されることへの恐怖のすべてには、正当な理由がなかったのです。恐怖を抱いていたハルマゲドンが次に発生する偉大な出来事であるはずはありません。

### 突然の審判？

これにも動じず、「不信者」が油断しているところに「当然与えられるべき審判」を受けさせるために、天からの「突然の攻撃」が起こるであろうと恐れる人がいます。これを正当

---

1 日本聖書訳：「ところが、わたしは、主の日に御霊に感じた。（原文（KJV））」

化するために、彼らはイエス自身の言葉を福音書から引用します。

「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存じである」

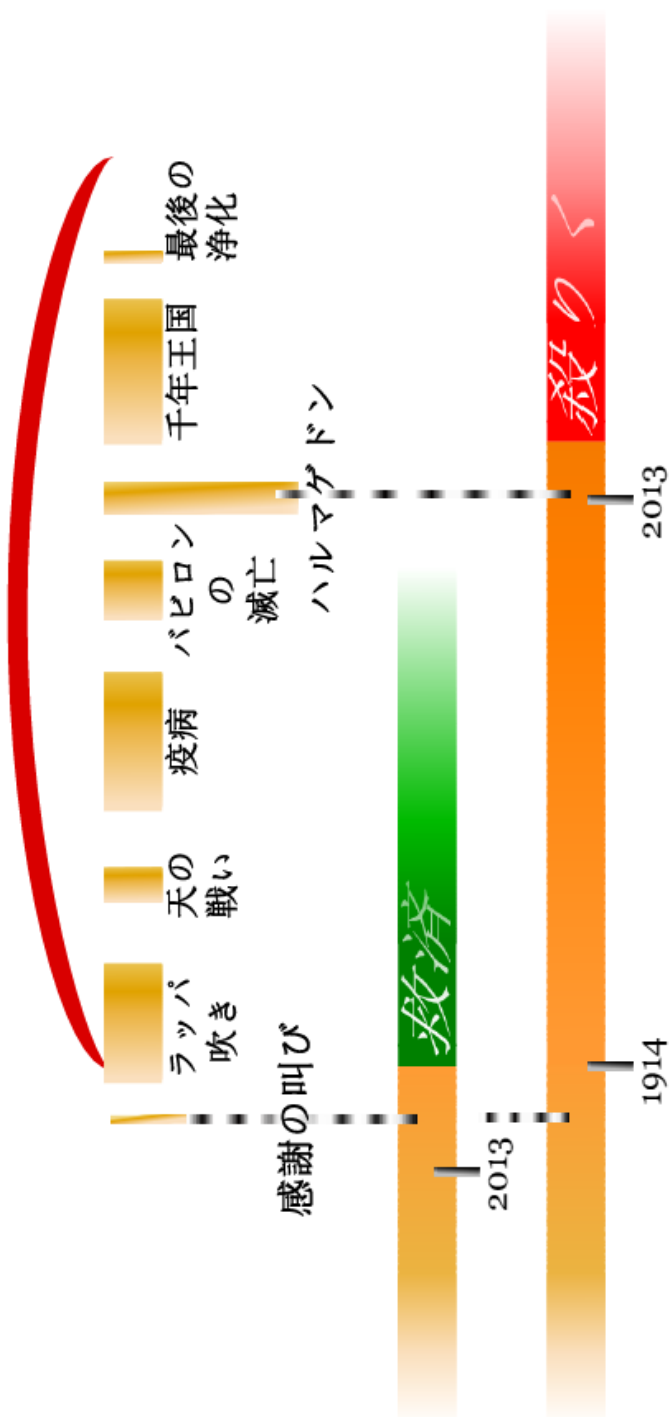
マルコによる福音書 13:32

しかし、天の時計が真夜中を知らせるチャイムを鳴らすと同時に突然に攻撃することを意味するのではなく、この聖句は、単に万能なる神が私たちの行動をたいへんよく予想していらっしゃることを意味します。神は私たちが神に助けを求めるであろうことをご承知で、我々の欠点だらけの性質がこの段階に到達するまでにどれだけ長くかかるかを、その正確な日付までご存知なのです。また、どの特定の危機によって私たちが駆り立てられるかまでご承知だったのです。

## 時間の系列ではなく、出来事を基準とする

神の介在の前に、真に重大な事が先行しなければなりません。そうでなければ、神は過去 1,900 年の間のいつでも介入することができたはずですが、それは、地上で発生し、一般市民が目にするのできる何か重要な出来事でなければなりません。それにより、彼らは神の介在に目的があったことを理解することができるでしょう。

# ヨハネの黙示録の預言 の出来事



時間の流れの中でここに私たちがいるかで、神の介入が放蕩息子を救おうとするとする愛情を持った父親のそれなのか、油断した人を殺りくする残酷なヘロデ王のそれなのかが決まります。

また、救済とは、ハルマゲドンでの神の行為は抑えきれない力ではなく、荒れ狂い、死に至る恐れもある反逆から人類を救う思いやりのことでもあります。

Fig 1 ヨハネの黙示録の預言の出来事

気候変動危機は、まさにその出来事に相当します。 これまでに私たち人類が直面した危険で、これほどその存続自体を脅かすものはありませんでした。多数の優れた頭脳の持ち主が、私たちが悲劇的な結末を回避するためになせることはもうなく、もはや物事が展開するのを見つめるしかないと宣言しています。自己救済の希望がなくなった今、最後の術として私たちは助けを乞わなければなりません。しかし、それをいつ行うかは私たち次第なのです。

## より広範的な前後関係

全能なる神がなぜ今、単に介入してくださらないのかと感じる人がいます。この危機は確かに由々しき事ではありますが、それ自体が私たちにより深く関わりのある前後関係におかれているということが、この遅れの理由なのです。

全人類が壊滅に直面している最中にはそのような理由は信じがたいかもしれませんが、この前後関係は人類のほかならぬこの歴史を説明し、私たちを救済すると共に再び同じ状況が私たちにふりかかることがないよう保証してくれるのです。

そうすることでこの背景は、これまで何世紀にもわたる宗教の教義が私たちから隠してきた、息をのみこむほど慈悲に富み親しみやすい神を示してくれるのです。

これまでの人類史のテーマとも言えるこの単純でかつ包含的な前後関係は、聖書の創世記のいちばん最初にはっきりと述べられています。

# 聖書のテーマ

## 人類は神なしに 生きることができるのでしょうか？

聖書は人類の未完成の歴史です。神の保護のもとに私たちが遂げた進歩の叙述となるはずでした。残念ながら、それは私たちの最大の過ちの物語となってしまいました。それは私たちの回復の物語でもあります。そのテーマが、なぜ近いうちに神が介在するかを説明してくれるのです。

### 完璧な始まり…

最初の 2 人の人間が創造され、多数の人にエデンの園として知られる神の加護のもとに生活していた時のことです。全ては完璧でした。彼らは神の助けと忠告や優れた健康に恵まれ、地球全土が授かりものでした。

あらゆるよいものに囲まれたアダムは、「よくない」ものがどのようなものなのかを考え始めました。神は、そのような知識を持つと彼の中に抑えきれないほど大きな葛藤が生じることになるため、そうしないように進言しました。

アダムを助けるために、神は、彼の心が再びそれた際にその危険性を思い起こさせてくれる善悪の知識の木を示しました。その木を見つめると彼は啓発され、神の忠言を思い出すことができ、それから目をそむけると、心が危険な考えから離れることができるのです。

## …独立

しかしエデンの天使の監督者は、アダムとイブに、神が彼らの成長を妨げているのだと信じこませました。彼は、

「2人は独立を選択すればいいのです」

と言いました。そうすると、彼ら自身が神のようになれるでしょう。

自分たちが神の保護を敬遠することの愚かさに彼らは気づきませんでした。自分たちの生命が神に依存しているという事実にも気がおよびませんでした。こうして彼らは独立を選び、エデンを離れ、その世界で自分たちに関する権限を行使するようになりました。こうして「自由」になった彼らは、指揮者として誰の命令にも従わなくなったのです。

## ある質問…

これに対し、全能なる神はなぜ 2 人を単に抹殺し、従順な人間をもってこの世を再出発させなかったのか、疑問に感じている人が中にはいます。

「神がそうなすることが正当だったはずでは？  
そうすれば、何千年にもわたる難儀を回避することができたのでは？」

そのような行為がなされたとしても、同じことが再び発生するのを防ぐことはできず、この問題に対して神の主張を立証することもできなかつたでしょう。また、天に属するものであるか人間であるかにかかわらず、神の姿に似せて創られた創造物の中でこれまでに死んだものはまだいませんでした。それに加え、神は彼らの父であり、父が自分の子をこれほど冷淡に始末してしまうことはありません。

さらに、神のアダムに対する忠告は処罰の脅しではなく、独立することの結果についての警告だったのです。この反抗は、とても若い創造物によるたった一つの過ちでした。他に犯した些細な間違いからアダムが教訓を得たように、この場合でも教訓を得て立ち直ることが可能でした。

そのために、神なくして彼らが生存することは不可能であるという警告を神が喚起したのです。そのうえで、アダムが耳を貸さなかった助言をアダムの子孫が経験を通して学ぶように、神は 2 人に自分たちの道を歩ませたのです。

私たちが生存のために神を必要としていることを理解することが、私たちの存在における全般的なテーマだったのです。この問題は、自身の安全のために解決されなければなりません。

これまで言われてきたように、私たちが悟りを得たその瞬間に、単に何百万人もの人々を滅ぼすために神が再来するというのであれば、これは何の真実を示すことにもなりません。それとは対照的に、神の意図は、私たち人類が総じて教訓を得、その学習から利益を得ることなのです。

## 学習とキリストの再来

この目的のために、神はイスラエル国と、後には 1 世紀の救世主の両方をその時代の手本としてお定めになりました。これらを予期して神は、アブラハムによるイサクの犠牲、過越、そしてソロモン王などの預言的な出来事を歴史のいたるところに設定なさいました。そのため、これらの出来事が起きた際に、両方とも神の手はずにより現れたのだということに

人々が確信をもてるのです。それぞれが、この世における神の足がかりとなりました。

それ以来の神の意図は、審判の時に備えて私たちの自信を高めることで、アダムが助言として受け入れようとしなかったことを経験を通じて私たちに教示してくれるような「重大事」が発生した際に、私たちが懇願すべき対象となる神を認知し、信頼することができるようになることです。その後は、長年待ち望まれていたメシアの再来が、私たちの回復において 3 度目で最後となる足がかりを用意してくださいます。

## 重大事

キリスト教生誕後の歴史は波乱に満ちたものでしたが、私たちは「審判の時」をずいぶん長く待ってきました。私たちが気候変動危機の種を蒔いたのは 17 世紀になってからのことで、それが私たちの滅亡に導くことに気がついたのは、それよりも更に後のことでした。

それにもかかわらず、未だに私たちは神を必要としていることを認めず、神が私たちの救済のために待ち受けていらっしゃることも認めていません。私たちが独立したことや神を不正確に代弁したことが、私たちに神を忘れさせる原因だったのです。

これを予期して神は、私たちが救済を必要する時期にあわせて、預言者という支援を用意して下さいました。これは人類が独立した時代の最後の預言者で、人類を救済のために神に向かわせるためのものです。

# 最後の預言者

## 人類が独立した時代の最後の預言者

最初の使徒の時代から何世代もの時間が経過し、その間には神による導きも預言者もありませんでした。それには正当な理由があるのです。キリストの時期以降、私たちはもはや律法のもとではなく、受けるに値しない神の情けのもとに生活しています。使徒パウロは次のように述べました。

こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが**信仰**によって義とされるためです。…しかし、**信仰が現れた**ので、もはや、わたしたちはこのような養育係の下にはいません。

ガラテヤ 3:24-25

使徒ペテロは次のようにも述べました。

「わたしたちも、その人たちと同じように<sup>[2]</sup>、主の過分のご親切<sup>[3]</sup>によって救われることを頼みとしているのです」

使徒言行録 15:11

---

<sup>2</sup> 弟子たちの (使徒言行録 15:10)

<sup>3</sup> 日本聖書訳: 主イエスのめぐみによって原文 (KJV)

許しを与えられているときに審判が行われることは有りません。神との良き関係をいかに築くかを、イエスご自身が私たちに教えて下さいました。この時代を良きものにするのに必要なものはすべて揃っていました。私たちはこれ以上の指導も要らなければ預言者も必要としませんでした。

## 唯一最後の預言者の必要性

しかしこれは、次の創世記で問題とされる点を復活させる「重大事」、すなわち気候変動危機が生じるまでの話です。

「人類は神なしに生きることができるのでしょうか？」

気候変動危機を遅らせたり予防することはできません。エスカレートしすぎたために、技術によって解決することはできないのです。それを緩和するのに必要な計り知れない力が私たちにあったとしても、それをどのように使っていいかがわからないでしょう。この危機は落ち着くまで猛烈に展開し、人間が居住できなくなる点をはるかに超えたところまで急速に進行するでしょう。

これは「宗教的」な観点ではありません。著名な科学者たちが、私たちがより強力な勢力の傍観者と化したことを認めて

います。つまり、創世記の質問の答えが出たのです。私たちは「終盤」の地点をすでに通過しており、それが行き着くところにもはや疑念はありません。私たちは、「3手で詰み」の段階に到達しているのです。

人々が危機に直面すると、助言を求めるものです。しかしこの場合に人類に与えることができる助言は、効果のないものばかりでしょう。しかし、私たちを救うことができる助言があります。それは私たちの時代の最後の預言者から発せられるものです。

## 最後の預言者

逆説的なことに、最後の預言者は**地**であり、**気候**こそがその声なのです。神は、神の忠告を私たちに脅かす災難そのものに定めたのです。

人類が成したことすべての目撃者である地 — 神が次のようにおっしゃったときに、人類が保護することを誓ったその地:

「子を生んで多くなり、地に満ちて、それを従わせよ」

創世記 1:28

これが私たちに反対する証言者なのです。私たちが神への約束を守らなかったことを証言するだけでなく、神が提供してくださった住処を、神の創造物にとって危険な場所に変えてしまったことを明らかにしています。そしてふさわしいことに、私たちは意識していないかもしれませんが、気候もまた、この問題を私たちの生存の鍵として創世記で提起しています。

すべての預言者のように、それは私たちの行動の結果として生じたものです。すべての預言者のように、それは審判のメッセージを明言するものです。それは私たちに個人的に反対するものではなく、神なしに生存しようとする私たちの能力に反するものです。しかし、以前の預言者とは違い、このたびの預言者を黙殺することも、疑うことも、無視することもできません。

これが、このメッセージに必要とされる唯一の預言者であり、私たちが神から独立しようとすることの無意味さの完璧な証言なのです。それは人間の声よりもより効果があり、言語、知性、地位や信条の違いを超えて生きる者それぞれの心に直接語りかけます。連鎖的変動の性質をもつこの危機は、私たちが何世代も前に向き去った神に向かうまで「説き」続けるでしょう。

まさにこの理由から、イエス・キリストは放蕩息子の実例を教えてくださいました。

## 放蕩息子

若者が父親に、彼がもらうことになっている財産の分け前を求めた。彼は遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。ついに困窮し飢えた彼は、父のところに帰ることにした…

ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子が後悔を述べる間、父親は**慎みない歓び**を口にし、息子として彼を**大喜び**で迎え入れ、息子の帰郷を豪華に祝福した。

ルカによる福音書 15:11-32  
(要約)

人類こそが放蕩息子なのです。最初の 2 人の人間を通じて、私たちは、地という私たちの分に相当する財産を獲得しました。私たちは独立して生活してきましたが、離れたままでは生存できないことを認めるまで、そのような生活が続くでしょう。私たちが天にまします父に戻る時、神は神を信じない者を虐殺することはせず、私たちが彼のもとに帰還することを喜び、走り出て私たちを迎え入れてくださるでしょう。

しかし、神に向かうことは、次のようなよく知られた問題を提起します。

「誰が私たちが神に導いてくれるのでしょうか？そして多々あるうちのどの教会が、万能なる神の代弁者なのでしょうか？」

## 私たちは誰に従えばよいのでしょうか？

最後の預言者は、いかなる特定の人種、宗教、伝道者や国家をひいきすることもなければ、推薦することもあります。従って、最後の預言者は不和を生じさせることはなく、信条に関係なくどの人にも平等に訴えかけます。

この地上で従うべき人物や、私たちの仲介役となる教会は他にありません。悟りと救助の時はあまりに重大なので、そのような混乱を許す余地がないのです。

その代わりに、最後の預言者は私たちの請願を直接天にまします万能なる神に差し向けてくださいます。そして神には特別な態度で接しなければなりません。

# 私たちの接し方

神を愛する者は、主の祈りに忠実に従い、この地で神の意志が成されるように祈りました。最も高潔な心の持ち主が請いましたが、神の王国は実現しませんでした。気候変動危機に対してさえも、これらの祈りが神の介入をもたらすことはありませんでした。

この沈黙は、祈るものの信仰が足りなかったからではなく、特別な罪を犯したからでもありません。心をこめた祈りはもちろん貴重ですが、組織宗教が天の来るべき介入に際して果たす役目はありません。神は特別な祈りをお待ちです。そしてそれは宗教でも、良き心を持つ者による信仰の問題でもありません。善と悪の問題でさえもなく、権威の問題なのです。

## 権威の問題

最初の間人であるアダムが独立を選択した時、彼は自分の子孫がおかれる方向と福利への責任をもつことになりました。  
人間は、地上で神がおかれるべき地位を独占したのです。

それぞれの国家が、その権威でその地方にあたる部分を引き継ぎ、歴史を通じて支配者が国家の全住民を代表してきました。聖書は支配者をリーダーとして尊敬すべき「上位の権威」

として表現しています。これについて使徒パウロは次のように明確に述べました。

すべての魂は上位の権威に服しなさい。神によらない権威はないからです。存在する権威は神によってその相対的な地位を許されているのです。したがって、権威に敵対する者は、神の取り決めに逆らう立場を取っていることとなります。それに逆らう立場を取っている者たちは、身に裁きを受けます。支配者たちは、善行にではなく、悪行にとって、恐れるべきものとなるのです。

それで、あなたは権威に対する恐れを持たないでいたいと思うのですか。善を行なってゆきなさい。そうすれば、あなたはそれから称賛を受けるでしょう。それはあなたの益のための神の奉仕者だからです。しかし、もしあなたが悪を行なっているのであれば、恐れなさい。それはいたずらに剣を帯びているのではないからです。それは神の奉仕者であり、悪を習わしにする者に憤りを表明する復しゅう者なのです。

ローマ 13:1-4

これが、慈善の心に富んだか無慈悲であるかにかかわらず、すべての国の支配者の道なのです。この証拠として、ユダヤ

の国家が反乱に満ちていた時期に、使徒ペトロは次のように忠告しました。

人間の規則すべてに、主のために服しなさい。上位者としての王に対してであろうと、あるいは、悪行者を処罰し、善行者をほめるために王から遣わされた総督に対してであろうとそのようにしなさい。…あらゆる人を敬い、仲間の [精神的な] 兄弟全体を愛し、神を敬い、王を敬いなさい。

ペトロの手紙一 2:13-17

ここで言う当時の「皇帝」とは、あの恐るべきネロだったのです！ですからパウロと後にペトロが述べた忠告は、市民は、誰が行使するにせよ権威に従うべきという点で一貫しています。

## 現代の権威

そして今日、各国で元首や国家のリーダーの両者が市民の上位の権威を成しています。これら数百人の男女が地上のすべての人を宗教のリーダーとは別の何らかの方法で代表しています。これは、アダムがエデンにおいて万能たる神から奪い取ったこの世界における権威全体を、彼らが集合的に代表しているからです。

われらの神聖な救助を祈らなければならないのはこの人たち  
なのです。 彼らの行為に対して意義を唱えることができるよ  
り上位の権力はなく、彼らの呼びかけに反対する余地はあり  
ません。歴史上初めて、アダムが創造者から奪いとった完全  
な権威は、彼らの祈りを通じて天に向かって訴えかけるでし  
ょう。

信仰深い人たちにとってこれは不公平に感じられるかもしれませんが、  
モーゼが紅海の海岸に立ったときのように、これは単に「立ち上がっ  
て傍観する」時なのです。そしてこれを正当化する理由がある美しい  
名前があると気づいた時、彼らは自分たちが「傍観者」であったこと  
を喜ばしく感じるでしょう。





## …まとめ

この部では、何が**将来起こる**かを説明しました。多数の宗教が約束するのとは裏腹に、神の介在による私たちの救済は、それを信じるのが条件になっているのではなく、私たちを保護するという神の偉大な目的の結果として起こります。

第 2 部では、神が祈りに対してどのようにお応えになるかを説明し、この世界中の保護を聖書において叙述される救済と比較し、神による神聖な救助がどの程度にわたるものであるかを示します。



## 第 2 部

—

私たちの祈りに応える



# 私たちの祈りと 神の反応

私たちの支配者たちが天に向かって呼びかけるとき、その中に信者でないものもいても、異なる名前の神に呼びかける者がいても、違いはありません。

「アッラー」または「ヤーウェ」、

「父」または「エホバ」

— 唯一の万能なる神しか存在しません。神は名前に応じられるのではなく、地の全体の権威からの呼びかけに応じられるのです。

## 戦慄

支配者の中には動揺する人もいるでしょう。彼らは、支援に対して通常その代償があることをわきまえています。これには間違いなく金銭的なものが含まれ、自由の喪失もよくあることです。中には、支援の代償として助力者に権威を要求されるという悲痛な経験を思い起こす人がいるかもしれませんが、彼らの窮状に対して同様に差し迫った懸念は感じませんでした。無力で卑屈に感じることでなりそうな見込みは、緊急事態と同様に不快なものとして感じられることがあります。

しかし今回は、すべての支配者が統一されます。他人に弱みを見せることや、強力な隣人の意思に耐えることの恥はありません。しかし、神に呼びかけることが一種の降伏であるという懸念は不安に感じられるでしょう。彼らはよく知らない力に必死に懇願し、何を予期していいのかわからないわけですから、もっともなことです。

## 安心

しかし、神の反応は協力的で安心させるものであり、いかなる国家の経験からも異なるものでしょう。

第一に、神の存在は世界中の空でいかなる人でも見ることができます。これが、彼らを脅かしてきた気候よりもはるかに強力な力であることに、人々はすぐに気づくでしょう。彼の力は明白ですが、仰々しいことはなく、計り知れないながらも不自然であったり突出した様相を呈したものではありません。支配者は、紅海の水のように棚上げされた気候の身に迫る脅威を一瞥し、彼らの願いによって現実となった力の背景にある慈善心を感じ取るでしょう！

人々は、償うべき代価なるものは存在せず、これは降伏ではないことにすぐに気づくでしょう。これが、私たちが長いこと無視してきたにもかかわらずすぐに応えてくださり、権力

をお持ちであるにもかかわらず私たちにそれを強要するようなことはなかったという、彼の方です。彼の人による介入は、人類の方向性そのものを変更してしまいました！これは、このようなことを私たちが何世代も前に行っておけばよかったと感じる事柄です。

万能なる神はたいへん速く行動なさいます。神による介入は一回だけの出来事ではなく、過去の人間とのやりとりに即したものであり、この日のために私たちが準備させるために歴史を通じていろいろな出来事を設定してきたことを宣言することで、神は人間ひとりひとりの心を落ち着かせます。人々はそれらを思い起こし、私たちが孤立したことは一度もなかったと誰もがその瞬間に理解するでしょう。神は私たちが呼びかけてくるのをずっとお待ちでした。そして、私たちの救助が彼の子の息子、すなわちメシアであるイエス・キリスト次第であることを宣言するでしょう。

中には次のように考える人がいるかもしれません。

「それなら、なぜキリストご自身が私たちの呼びかけに  
応答なさらないのでしょうか？」

その理由は、この世界の支配者たちは万能なる神に助けを求めたので

あり、その息子ではなかったからです。そしてその中には神を全く異なる信仰を通じて崇拝する人がいるであろうからです。もし全世界がメシアを天の慈善に満ちた権威として受け入れるならば、神ご自身がメシアを私たちに紹介しなければならないでしょう。

当然、多数の人が感じる大きな課題は気候問題の解決であり、彼らにとってこのキリストの紹介は不必要なことに感じられるかもしれません。しかし、私たちが神の介在の前後関係を理解するにつれ、私たちはそれが即座の救助以上のものであり、それにより神はすばらしい将来への扉を開いてくださることがわかるでしょう。

## 前後関係から見た神の介在

神の介在は単一の出来事ではなく、聖書のテーマに関する最新のご支援なのです。キリスト教者の道という現在の足がかりは、それ自体がヘブライ人国家という最初の足がかりから発したのと同様に、その上にもものを築くためのものです。

そのキリスト教者の道の存続する前後関係は、イエス・キリストご自身が、マタイの福音書の最後で次の言葉で明らかにされています。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」

マタイによる福音書 28:18

そのとき以来、天に向けられたそれぞれの祈り、神へのそれぞれの呼びかけ、聖霊へのそれぞれの懇願は、天にまします父上にかわってイエス・キリストが受理してくださいました。キリスト教信者だけでなく、あらゆる信仰により万能なる神を愛する者各人が、このほかならぬ神の息子によって保護され、十分に大切にされてきました。1,900年の間私たちの呼びかけに耳を貸してくださった今、私たちは、メシアが私たちのことを十分に理解してくださっていると自信を持って感じることができます。

神ご自身の介在にもかかわらず、キリストのお役目の期間はまだ終わっていません。キリストの君臨という、私たちの回復における次の段階は、これから始まるところです。世界のリーダーたちが、彼らの権威を神に委ねる際には、彼らは同時にそれを神の息子にも委ねることになります。これは神の介在の方法を説明し、キリストの生命において新たな段階の到来を告げます。

## キリストの役割

この時点では、地上のすべての権威は神に委ねられ、イエス・キリストが以下の記述の通りになると、黙示録およびテモテ第一の聖句が実現されます。

「王として支配する者たちの王，主として支配する者たちの主であり。」<sup>[4]</sup>

テモテへの手紙一 6:15  
黙示録 17:14 & 19:16

世界の支配者たちに、そして彼らの中に天に向かって呼びかける特権があるのは、まさにこの通りなのです。彼らの呼びかけは、全世界を修復して導く権威をもつこの新たに美しいキリストの呼び名を正当化するでしょう。

黙示録は、次の言葉をもって、すべての創造物が神とキリストへの感謝を認める場となる初の行事としての戴冠式を記録しています。

そして、天と地と地の下と海の上とにいるあらゆる被造物、およびそこにあるすべてのものがこう言うのが聞こえた。

「み座に座しておられる方と子羊とに，祝福と誉れと栄光と偉力が限りなく永久にありますように。」<sup>[5]</sup>

黙示録 5:13

---

4 「王の王、主の主」 (黙示録)

日本聖書訳：「もろもろの王の王、もろもろの主の主（原文（KJV））」

5 日本聖書訳：「…「御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」。」（原文（KJV））」

地上からあがったこの満場一致の賞賛の叫びは、これまでに一度も起こったことはありません。しかし、これは私たちが救助されたことによる世界中の安堵の表現から生じるでしょう。

そしてこの監督に関する件が速やかに解決され、万能なる神ご自身が退出されると、新たな王による統治の開始が可能になります。そのときこそ、神聖な救助が開始できるのです。

# 神聖な救助

## 安全

私たちの新たな王の最初の優先事項は、私たちの呼びかけの理由である気候変動をなだめることです。彼は既に一度、マタイによる福音書に報告されるように、ガリラヤの海で悪天候を静めさせたことがあります。

イエスが舟に乗られると、弟子たちはそのあとに従った。ところが、見よ、大きな動揺が海に生じ、舟は波をかぶるのであった。それでも、イエスは眠っておられた。そこで弟子たちはやって来て彼を起こし、

「主よ、わたしたちをお救いください、わたしたちは死んでしまいそうです！」

と言った。しかしイエスは言われた。

「なぜあなた方は小心なのですか、信仰の少ない人たちよ」

それからイエスが起き上がって風と海を叱りつけると、大なぎになった。それで人々はすっかり驚き、互いに

「これはどういう方なのだろう、風や海さえ従うとは」

と言った。

マタイによる福音書 8:23-27

気候があまりにすぐに落ち着くので、ほとんど些細なことに思われる  
かもしれません。本当のところ、それは私たちにとって極めて重要で  
すが、こちらの方がより劣った奇跡なのです。神が皆に見えるように  
上空に現れたという事実は、その目撃内容が人間の性質の治癒を刺激  
してくれるため、真に驚異的なことなのです。

## 神聖な救助

# 明確さ

神の出現は、私たちに洞察力の明確さを与え、瞬時に多数の間違った考えを一掃してくれます。

### 神の証明

その日以降、誰もが疑いなしに神の存在を知ることになるでしょう！このことは、生きる者全員の心に影響を及ぼすでしょう。突然、私たちは孤立しておらず、私たちに宿った偉大な力が助けとなってくれるのです。さらに、生きる者全員を保護することで、神は歴史上最大の論争のひとつを覆しました。

### 宗教上の混乱の決着

宗教が神秘的で畏敬の感をもたらすことはなくなるでしょう。各人が残存する他人を見て、なぜ孤立した彼らが地上の世界を受け継がなかったのかを考えるでしょう。「唯一の真の宗教」という不和を生みやすい考えは打倒され、自分たちが神の「救済に導く門の守衛」であるとする彼らの仮定は消散してしまうでしょう。

天は代弁者をもたずに自己弁護するため、多数の人たちにとって、彼らの宗教に対する恐怖は一晩のうちに消え去るでしょう。彼らが恐怖によって自分たちが信じていないことを受け入れる必要は二度とありません。神は、神が私たちの中に創造された自由意志を崇拝者たちが取り戻すことを可能にしてください。

## 自由意志

私たちの「独立時代」は、その名に値するものではありませんでした。人生は踏み車の擬態にすぎず、多くを約束するものの、満足させてはくれません。結果に繋がらない規律や期待があまりに多くあり、それらは人生のすべての段階を支配します。

しかし、賄賂で買収したり脅すことができない慈悲深く賢明な王が地上の権威をふるうようになった今、私たちは真の独立を体験し始めるでしょう。私たちはキリストが被抑圧者を招く際におっしゃった次の言葉を思い起こすでしょう。

「すべて、労苦し、荷を負っている人よ、わたしのところに来なさい。そうすれば、わたしがあなた方をさわやかにしてあげましょう。わたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。わたしは気質が温和で、心のへりくだった者だからです。あなた方は

自分の魂にとってさわやかなものを見いだすでしょう。なぜならば、わたしのくびきは心地よく、わたしの荷は軽いのです」

マタイによる福音書 11:28-30

神は、神に対する私たちの愛が強要されたものである場合、それが本物でないことをご存じです。自由意志は私たちの贈り物を価値あるものにし、私たちがそれを手放すように神がお求めになることは決してありません。競争、向上のための努力や外観による格付けなどの、私たちの時代の人工的な支配のすべてに関しては、いずれは私たちの肩からその荷が落ちるでしょう。その代わりとして私たちは心の自由を持ち、それが私たちの発展の最適な基盤となるでしょう。

## 混乱のない権威

大型の国家は小型の国家に対して常に影響力を持ってきました。神の目では特別愛顧する国家はないということに各人が気づくため、それは変化する可能性があります。すべてはその上位に同じ神を持つことになるのです。財産、権力や資源の豊かさによって神の好意を買収することはできません。優れた動機は、王の中の王が最も価値あるものとする新たな金となるため、「大きい」や「小さい」といった言葉は再定義されなければなりません。

リーダーは、自分たちだけであらゆる問題を解決したり、自分たちの限界について心配する必要はもはやありません。なぜなら、彼らは忠告と支援を王の中の王自身から得ることができるからです。彼らの成功が権力と商業に頼ることはもはやありません。その代わりに、新たな王と一致して行動する者たちは、イザヤのヘブライ人に対する報告にあるように、国家が繁栄するでしょう。

「わたし、エホバは、あなたの神、あなたに〔自分を〕益することを教える者、あなたにその歩むべき道を踏み行かせる者である。あなたがわたしのおきてに実際に注意を払いさえすれば、あなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようになるであろうに。そして、あなたの子孫は砂のように、あなたの内なる所から出る末孫は砂粒のようになるであろうに。人の名がわたしの前から断ち滅ぼされることも、滅ぼし尽くされることもないであろうに」

イザヤ記 48:17-19

そうすることで彼らは、キリストの初期の統治下に無言で上級の職務を離れた者たちについて理解し始めることができるでしょう。

これは、キリストの帰還を目にした王や支配者が、自分の在職期間を完全に全うしたと感じるように

なるからです。彼らは高級高官の職を離れ、自分のための「川のごとき平安」を求め、長いこと待ちわびていた神の案内が生命への道であり、すべての創造物は最終的に同じ道をたどることになるという理解をもって、それに従うことを選びます。

## 信仰における明瞭

自己依存を続行することを選ぶ人たちがいる場合、それは本人次第です。しかし、神の精神ともいえる神の性質から学習することを選択した人たちは真の目標を追求していると思われ、単に「宗教に慰めを求めている」とは見なされません。メシア自身が私たちのための神の案内者だと誰もが知っているため、神への愛はもはや哲学ではありません。初めて、世界中で行われる崇拝に明瞭が存在するようになります。

私たち皆が、崇拝は恐怖の問題でも罪悪感の問題でもなく、神による私たちの発展という問題であることを理解するでしょう。神が自分の姿に似せて私たちをお創りになられたときの神の意図の真の意味を、私たちは理解するでしょう。そして私たちは哀願者ではなく、神が案内と保護のために神の性質をお送りになった先の神の子であることを理解するでしょう。

## 神による指導

初めて、この地で神による活発な指導が行われます。ずっと勝手にされてきた人間の性質は、神の性質を支援と競争の両方として持ち合わせるようになります。私たちが真の生活に引き合わせてくれる「支援」、そして自己依存よりもよいものがあることを実証するための「競争」。神の性質は、一度出現するとそのままここに残ります。自己に依存しなければならぬことは一切なくなります。

キリストから学ぶということは、山上の垂訓で報告された福音のように、自分の宗教に従うこととは全く異なるということ、私たちはすぐに理解するでしょう。

群衆はその教え方に驚き入っていた。なぜならば、  
権威のある人のように教えておられ、彼らの書士た  
ちのようではなかったからである。<sup>[6]</sup>

マタイによる福音書 7:28-29

パレスチナで彼がお示しになったあらゆる親切心、あらゆる励ましとあらゆるユーモアは、未だに彼の人格の一部となっています。彼は、道のりの一步一步が私たちに活気づけると

---

6 日本聖書訳：「イエスがこれらの言を語り終えられると、群衆はその教にひどく驚いた。それは律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。（原文（KJV））」

いうことをご存じで、善の知識を悪と比較することなく、  
人々を脅威ではなく親切心によって導かれます。

これらの体得、すなわちこの洞察力の明確さは、神聖な救助の一部にすぎません。それは将来への基盤を形成し、生きる者すべての心に直接届きます。現在の時点からそこにたどり着くまでの道のりでは、個人の審判だけでなく、信じることの期待さえもが要件とされることがありません。そして私たちが目的地に到達すると、過去には不可能だったあらゆる偉大なことが可能になるでしょう。

# 神聖な救助

## 真の救済

私たち人類は絶滅から救われたものの、これは使徒によって説かれた救済と同じではありません。気候変動からの私たちの救助は、善も悪も区別なしに救われましたが、本当の救済は、後に神の真価を理解することによって得られます。

キリストによる統治はこれのみを目的とするもので、神の介在に対する私たちの感謝が心の中でまだ色あせていないうちに、それを踏み台にすることです。気候変動危機は死の恐怖を各人にもたらしましたが、私たちは永遠の生命が何であるかをご存じの方によって救助されました。それは当初人間のものでしたが、神は再びそれを人間のために意図していらっしゃる。

天にまします父のそばにいることの真の利点を示すことができるのは、私たちの新たな王だけです。使徒ペテロは次のように述べました。

「[イエス・キリスト以外の]ほかのだれによる救いはありません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」

使徒言行録 4:12

これにはそれなりの理由があります。なぜなら、イエス・キリストは、父がいない人生は人生とは言えないことを、他の誰よりもよくご存じだからです。そのため次のように使徒に説明されました。

「わたしを遣わした方は共にいてくださいます。わたしを独りだけにして見捨てたりはされませんでした。

子は、自分からは何一つ行なうことができず、ただ父がしておられて、自分が目にする事柄を行なえるにすぎません。何であれその方のなさること、それを子もまた同じように行なうのです」

ヨハネによる福音書 8:29 & 5:19

私たちの王は、不死身であるにもかかわらず、人生における指導者を失ってしまうので、父のもとを離れることが決してありません。彼は、真の人生は肉体的でも精神的なものでもなく、私たちが繁栄させることができる方によって養育されることであると理解なさっています。私たちが成長するのに、神の助けなしでは単に存在するだけになってしまいます。

そのため、私たちの主は、辛抱強く何百年もの年月をかけて、死と失望に至る道としてごく最近に暴かれた独立から、私たち個人個人を優しく遠ざけてくださるのです。彼は、私たちの父の保護のもとでの永久の人生によってのみ可能な永久の発展へと導いてくださいます。私たちの主による統治の終了が近づくにつれ、自分たちの限界からの救

いを得られるでしょう。王の中の王は、以前の神による私たちの肉体の神聖な救助を補完するため、私たちを精神的に救ってくださるでしょう。

しかし、私たちの救済は、通常の意味が指す救助になることはまずないでしょう。キリストは、私たちの暮らし方と環境の両方を変えるように私たちを導いてくださるでしょう。キリストの統治が終わるとき、人々が逃避として「安全な場所に救い出される」ことはありません。なぜなら、全世界が美しく安全になっているであろうからです。それに向かって前進するのではなく、約束の地が彼らの周りに建てられていることでしょう！

しかし聖書は、我らが主による統治の別の側面についても言及しています。「ハルマゲドン」、神の怒りの鉢、悪魔の地への到来、「偉大なるバビロン」が陥落などという側面です。従って私たちは次のように自問しなければなりません。

「黙示録にある出来事についてはどうでしょう？ それらは私たちにどのような影響を及ぼしますか？

救済のためにどれだけの努力が必要でしょうか？ もし私たちの努力が十分でなかった場合は？

それに、審判の日についてはどうなのでしょう？」

これらの思慮は何世代にもわたって人々を脅かしてきましたが、心配する必要はありません。私たちが助けを求めた時に突然の殺戮が行われることがなかったように、私たちが神に向かう途中で神からの予期せぬ審判を受けることはありません。なぜなら、審判の日も動乱に満ちた黙示録の出来事も、共に非常に限られた前後関係の中で起こることだからです。

# 神聖な救助

## 審判と啓示

生命への鍵は、

それを与えてくださる方への心からの感謝です。

それが生命への唯一の道筋であり、その要件なのです。神を信じることをためらう者に圧力がかかることもなければ、強制や脅迫もありません。彼のすばらしい性質は日増しに明らかになるでしょう。そしていずれは誰もが疑いなく魅力を感じるようになるでしょう。神は救済を得やすくしてくださり、彼に断固として立ち向かう者にとってしか不快に感じられることはないでしょう。

審判の日も黙示録の出来事も、このような前後関係をもっています。

これらは善き心の持ち主の裁判なのではなく、世界を自分たちのために取り戻そうとする者たちの結果なのです。

### 審判

神は、私たちの救助の時に真の正義を示してくださいました。

神は、使徒の時代以来預言者も信心深い国家も持たぬ人類が、徐々に神から遠ざかって行くであろうことを事前にわきまえておられました。私たちの孤立は、悪の知識を既に得た人類

が神の愛を満たすのには、善の知識だけでは十分ではないことを証明しました。彼は、私たちの最後の世代を責めるべきではないことを理解していました。私たちは、深く浸透し、私たちの社会に固有な一部と化した独立心の被害者でした。神は私たち個人を審判されることはありません。神が唯一下された判断は、神なしに人類が生存することはできないと私たちの支配者が自認したことの反響のみです。

しかし、キリストの統治のもと、神の性質は世界で初めて確立されるでしょう。私たちが過去に何を犯したかにかかわらず、そのことを会得した者は、ペトロが言及した真の救済に徐々に自然に向かうでしょう。キリストご自身のニコデモに対する次のお言葉は、このことに関して私たちを安心させてくれます。

「神は世を深く愛してご自分の独り子を与え、だれでも彼に信仰を働かせる者が滅ぼされないで、永遠の命を持てるようにされたからです。

神はご自分の子を世に遣わされましたが、それは、彼が世を裁くためではなく、世が彼を通して救われるためなのです。 **彼に信仰を働かせる者は裁かれませんが、信仰を働かせない者はすでに裁かれています。** その人は、神の独り子の名に信仰を働かせていないからです。

裁きの根拠はこれです。すなわち、光が世に来ているのに、人々が光よりむしろ闇を愛したことです。その業が邪悪であったからです。いとうべき事柄を習わしにする者は、光を憎んで、光に近づきません。自分の業が戒められないようにするためです。

しかし、真実なことを行なう者は光に来て、自分の業が神に従ってなされていることが明らかになるようにします。」

ヨハネによる福音書 3:16-21

キリストは、これらの言葉により、恐れられる審判の日は、神がお与えくださるものに感謝する者には下されないことをお示しになりました。この免除は簡単に得ることができます。到達しなければならない水準もなければ、最終目標もありません。信仰がいかに深く進展した人であっても、彼らは独立の魅力に誘惑されることなく、単に神のもとでの生命を重んじるため、安全です。

## 審判への道に関する神の警告

対照的に、以前の慣習の方を好む人たちは、変遷をとげたこの世界では大変不安に感じることでしょう。彼らにとっての有利が証明された優位をめざした競争や機会が提供されることはありません。神によるこの改革は、独立の体制に戻りたい人たちにとってあまりに不快に感じられるでしょう。

2つの別々の人間社会が生じるでしょう。善き心の持ち主は、地球が浄化されたことに対して天に感謝するのに対し、改革を遂げなかった人たちは、単に地球そのものを欲するでしょう。ヘブライ人がエジプトで唯一自由な土地で子孫を増やしたように、神を愛する者は増え続けるでしょう。反抗者の本質的な性質は物事を獲得することなので、この地を単に2つの別々の領地に分離することは不可能です。そして周囲の世界が変遷していくのを傍観すると、彼らは古代エジプト人に倣ってその世界を戦闘により取り戻そうとします。

**黙示録が存在する理由はこのことなのです：**かつてアダムに発せられたように、独立を再び確立しようと試みた場合の結果を事前に警告することです。トランペットがあげる大きな音と神の怒りの鉢は、彼らが進もうとする危険な道に対しての神の忠言です。同様に、ハルマゲドンと最終攻撃の両方の記述は、反後者たちが自暴自棄になるにつれ、彼らの行動がいかに必然的に暴力的なものになるかを事前に警告するものです。

## 波乱に満ちた道のりの啓示

この反抗は、善人と悪人の両方の生活に混乱を引き起こすでしょう。とはいえ黙示録は、神を愛する者を神が護り、本当

は反抗的な心の持ち主ではない者を救ってくださるであろうことを私たちに保証しています。

叱責されたにもかかわらず、真に強情の者は、考えをより強固にするでしょう。神の性質の影響を阻止する方法が他にないことに気づくと、彼らは不死身である王の中の王に対抗するために、力を合わせて集合します。これがハルマゲドンとして知られる行為です。

## ハルマゲドン - エデンの再体験

エデンの時代、独立は失望と死に至らしめるものであるという神の警告が実証されなかったために、アダムは、独立を追求することが許されました。独立の結果を予言したその警告は、それらの結果が生じるまでは受け入れられることはありませんでした。神がこれまでずっと正しかったことを遠い子孫である私たちが自認するまでに、何千年もの年月が経過しました。

しかし、我らが主の統治のもとで独立への同じ努力が再びなされる時は、状況は異なるでしょう。

その際に、聖書のテーマはすでに実証されています。

今回は、何百万人もの人たちがキリストのもとで満足して生活しているために、エデンの時のように人類全

体が変革を求めるものではありません。創世記の反抗的な監督者とは対照的に、王の中の王は反乱を支持しません。アダムの時にあったようなコンセンサスは、今回は生じないでしょう。さらに、「エデンの東」に値するような、反抗者たちが追い込まれる広大な荒野は存在しません。全世界が新たなエデンに変容しているのです。

これらすべてについて、そして独立は死に至らしめるということを知っているにもかかわらず、古い時代を特色づける競争と獲得への欲望は、彼らにとってあまりに強力な魅惑になるでしょう。

独立の危険な結果としての行動の自由という愚かなことにおぼれているという、**これこそが2つの性質間の相違点なのであり**、「独立」自体が相違点なのではありません。エデンからの人間の没落を開始することになったこれらの特色は、生命への道を歩む者たちによって選ばれた、健康に満ちた存在のまさに対照的な事物です。

したがって、反抗者たちは神聖な救助の当初に死から救われましたが、生命への最後の足がかりであるキリストによる統

治の下では、彼らはその死を再び導き入れるでしょう。地を取り返すために彼らは精力的に努力するでしょうが、信者に対して脅迫する死は、自分の罪の報いとなり、天は生命に向けて歩む者を保護するでしょう。

審判の日も黙示録の出来事のどちらも、忠実な者に悪影響を及ぼすことはありません。反乱はすべての人に影響を及ぼしますが、天による非難が神を愛する者にふりかかることはありません。こうして地から反抗者がいなくなり、人類は千年の間、回復を享受するでしょう。これが、天におけるキリストの共同統治者の「至福千年」です。その後、悪魔が解放され、後悔しないことが判明すると、最終的に万能なる神ご自身により追放されます。

私たちが次のような鍵を保持する限り、こうした多難の時を通して天による加護が保証されています。

### **生命を授けてくださる方への心からの感謝。**

それは、間違いなく誰にでも手に入れることができるものです。そしてキリストの統治が終わりに近づくと、その生命は威厳をもって地平線に現れます。

# 神聖な救助

## 生命に取り組む

キリストの統治が終わりに近づくと、人々はその道程を振り返るでしょう。

神聖な救助は私たちを気候変動危機から救い、私たちの回復を脅かすあらゆる人間の特質から私たちを守ってくれるでしょう。神との友情は、孤立よりもはるかに満足のいくものであることを私たちは実感するでしょう。そしてそれは、神による地球の創造が完成されるにあたり、私たちが神の助手として地球を美しくするのに貢献できるという特権を得ることにつながるでしょう。そして、万能なる神への私たちの愛は、神が誠実に大切にされる贈り物なのです。

我らが主は、私たちに悪影響からの心配がなくなるまで統治なさいます。使徒パウロは次のように書きました。

次いでキリストの御世<sup>[7]</sup>の終わりとなります。そのとき、キリストはすべての支配、すべての [争いを好む] 権威や勢力を滅ぼし、神と父に国を引き渡されます。神がす

---

<sup>7</sup> この引用はギリシャ語の原文に忠実に訳されており、原文で示される「end（終わり）」は「キリストの御世の終わり」を指し、一部の翻訳で訳されている「世の終わり」「終末」とは異なります。

すべての敵を彼の足の下に置くまで、彼は王として支配しなければなりません。最後の敵として、「死」が無に帰せしめられます。

コリントの信徒への手紙一 15:24-26

地とその民の準備が完璧に整ったそのとき、キリストの統治は壮麗な終末をとげるでしょう。途方もなく長い期間の末に、人類は**万能なる神ご自身**を王として迎える準備ができたでしょう。

## 安全から…生命に！

キリストの統治は人間の性質から私たちに回復させ、将来へ向けた貴重な修行期間を与えてくださったでしょう。キリストと同様に、天にまします父のために身をつくす展望とともに、誰もが永続の生命を得ることでしょう。キリストは私たちを肉体的・精神的な死から救ってくださいましたでしょう。

しかし、今度は万能なる神ご自身が、我らが主イエス・キリストが信頼するのと同じ強烈な生命の味を私たちに与えてくださいます。単に存在するのと真に生きることの違いを体験することで、私たちは、人類がこれほど長い間いかにして神に頼らずに生きることに耐えてきたのか、不思議に思うでしょう。これらの孤立した長い年月は私たちの記憶から徐々に

消え去るでしょう。そして私たちが神のそばにいる限り、私たちはますます豊かで充実感のある人生に導かれるでしょう。

## …まとめ

この本の第 1 部は神の介在を求める人類の呼びかけについて説明し、第 2 部は神聖な救助の深さと、その先に何があるかについて説明しました。

最後の部分となる第 3 部では、私たちの時代の最後の数日間に恐怖感を乗り越えるために、今日このよき知らせがどのように私たちの助けとなってくれるのかを説明します。



## 第 3 部

—

# 神の介在 における私たちの役割



# 感謝

その呼びかけが天に届くのを待つ間、  
私たち一般人には何ができますか？

私たちの危急の時、神の聖霊は、神が私たちの救助を準備してくださったことをはっきりと明かしました。物事がなぜ起きているのかを理解した今、私たちに危険は及ばないという保証があり、この知らせは私たち自身そして私たちの子孫の将来にとって計り知れない安堵となります。神により発せられるすべての預言と同様に、その言葉の有益さは私たちがそれに対してどのように反応するかによるので、それについて考えれば考えるほど、私たちは安全に感じます。

そしてこれが神の目標でした：私たちが先見の明の非常に貴重な利益を今獲得し、危機に対する恐怖が私たちを取り巻く中、それにより、その恐怖から自分たちを解放することです。

## 安堵！

これまでの過去数十年間は、私たちの子孫にとってとても暗い将来、ほかならぬ人類の絶滅！、私たちが愛するこの惑星の破壊、切迫したハルマゲドンと神による審判といった、最も暗い恐怖をもたらしました。しかし今、神の情け深さのおかげで、私たちは楽に呼吸することができます。神のメッセ

一ジは、あらゆる国家が苦悶にさらされるまさにその時についてイエスが使徒に対して語られた、次のような言葉と一致しています。

「同時に人々は、地に臨もうとする事柄への恐れと予想から気を失います。なぜならば、天のもろもろの力が揺り動かされるからです。そのとき彼らは、人の子が力と大いなる栄光を伴い、雲のうちにあって来るのを見るでしょう。

しかし、これらの事が**起こり**始めたら、あなた方は身をまっすぐに起こし、頭を上げなさい。あなた方の救出が近づいているからです」

ルカによる福音書 21:26-28

そうなのです、気候変動危機は継続するでしょう、そして支配者たちが助けを求めるまで、多数の命が失われることでしょう。しかし、目前に救助が控えていることを知った今、私たちは頭をしっかりと掲げ、自信を持って将来に直面することができます。地平線上に真の新しい時代が近づいています。

## 将来を楽しみにする

こうして自信と安堵を得た私たちは、あえてよりよい生活を予見しようとする新鮮な目をもって世界を見つめることがあるかもしれません。天が私たちの行く道を支配するため、目

的の欠如、不公平や生命の無用さといったものは、すべてが改められます。私たちはほとんど将来の味を感じられるくらいです。安心の感覚があまりにも確かなので、致命的な気候変動危機が未だに活発であることを思い起こす必要があるかもしれません。

神の親切心により、これが私たちが持つ将来への新たな自信なのです…それに実を結ばせるのに必要なのは、私たちが万能なる神に呼びかけることだけです…

# 私たちはいつ 呼びかけますか？

神の介在を求めて助けを呼ぶには、すべての国家に影響を及ぼす、急激で大規模な変化が必要です。

講演『不都合な真実』の中で、アル・ゴアは、だんだんと暖かくなり続けるプールの中にいる蛙の例を挙げました。その蛙は、温度の上昇がとても徐々なものだったので、上がり続ける温度をそれが熱くなってさえも我慢しました。助けなしには、その蛙はものも言わずに熱に負けて死んでしまったでしょう。

## 急激な変化

その蛙とは違い、私たちは少しずつの変化と急激な変化の両方を体験するでしょう。私たちを取り囲む危険の深刻さについて私たちの目を覚ましてくれるのは、これらの急激な変化です。

ジェームス・ラブロック教授は、温暖化が進む北極圏を例として挙げ、それをコップの水の中に浮かぶ氷に例えました。氷が溶ける際の水の温度は驚くべきほど冷たいままで、これは氷が少ししか残っていない時でさえもそうです。しかし、

すべての氷が溶けてしまうと、水は急激に温かくなります。同様に、北極圏で急激に温暖化が進むと、壊滅的な結果をもって海水面、気象システム、しいては海流の進路にまで変化が生じる可能性があります。

極氷の減少、永久凍土層からの急激なメタンの発散、海洋機能の崩壊、熱帯雨林の自然発火などは、多数ある潜在的で急激な出来事で、そのそれぞれが、私たちが食い止めることができる能力をはるかに超えています。不作、氷河の溶解による恒久的な干ばつや広範囲でおこる人々の移動などのより一般的で比較的単純な災難でさえも、それによって私たちにかかる負担は過大です。

これらのうちの 1 つだけでも、私たちが助けを呼ぶのに十分なものです。そして有り難いことに、それを実行する意欲をもちあわせた世界のリーダーが出現し続けています。

## 政府の高位高官の懸念や気遣い

支配者の中には、彼らは何らかの理由から神によって高位高官の地位に配置されたと固く信じている人（それを私たちが疑う資格はありませんが！）、万能なる神が危機の時に彼ら

の力を発揮させるためにわざわざ彼らのキャリアを策略によって動かしたと本当に信じている男女がいます。

そのようなリーダーの多数は重大な日が到来する前にその地位を離れてしまいますが、彼らが権力の座についている間に果たすことのできる極めて貴重な役割があります。彼らの後継者は誰に助けを求めるかを知り、彼らの職場は全能者に対する自信を養い、神聖な救助を信頼し、躊躇なく神を尊重する意欲をもち、彼を最期の頼みの綱以上のものとして考える必要があります。この尊重の基礎を築くそれぞれの支配者は、極めて貴重な奉仕をしたことになります。その人たちが職場を最期に去るとき、彼らは自分が将来を保護したことを自覚しているでしょう。

そして神に助けを求める統治者であることは、間違いなく他に類のない特権ではありますが、基盤を築く人たちは、彼らの子孫よりも晴れやかに輝くことでしょう。ニネヴェの王は後悔することで民を神の怒りから守りましたが、実際に聖書で名前が記録されているのは王より以前の身分の低い使者であるヨナであることを心にとめておく価値があります。

しかし、支配者であるか臣民であるかに関係なく、誰にでも今できる

ことがあります。それは神の介在をより近いものにしてくれることで  
す…

# 私たちの稀で神聖なる特権

私たちの時代においてまだ残されている年は、私たちが信仰を示すことのできる最後の機会です。

ヘブライ人への手紙では次のように述べられています。

信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。

信仰によって、わたしたちは、この[異なる]時代が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです<sup>[8]</sup>。

これは私たちの状況を完璧に言い表しており、付随する信仰は私たちの恐れに対する防御手段なのです。同様の精神にもとづき、著者は過去の著名な信者について記述しています。例えばアブラハム、ノア、モーゼやその他多数がいます。約束されたメシアに対する彼らの信仰により、彼らの名前は永久に記憶に残されることでしょう。彼らが神

---

8 本著の文書は原文のギリシャ語に忠実に訳されており、本章に記述されるとおり「神の意図による『時代』」を表しています。

の意図の実行を担うにあたり、その信仰が彼らを維持し続けたのです。  
著者は次のように締めくくっています。

しかしなお、これらの人々は皆、その信仰によって証しを得ながらも、約束 [の成就] にあずかりませんでした。神はわたしたちのためにさらに勝ったものを提供し、わたしたちを別にして [信仰深い] 彼らが完全にされることのないようにされたからです。

ヘブライ 11

彼は、信仰よりも優れた「実際の成就」である、「約束されたメシア」のことを言っているのです。イエス・キリストは、弟子に次のように語られました。

「しかし、あなた方の目は見るゆえに幸いです。また、あなた方の耳は聞くゆえに幸いです。あなた方に真実に言いますが、多くの預言者や義人たちは、あなた方が見ているものを見たいと願いながらそれを見ず、あなた方が聞いている事柄を聞きたいと願いながらそれを聞かなかったのです。

だから、…を聞きなさい。」

マタイによる福音書 13:16-18

イエスの時代ではなく、アブラハムの時代やノアの時代に生きることを選択する人がいるでしょうか！

私たちは、私たちの救助の約束が履行され、キリストの統治を目のあたりにし、初めて神ご自身の実在を経験するといった、その現実性に非常に近づいています。イエスの弟子のように、神が介在なさるときに信仰の必要性はもはやなくなります。現実が私たちの前に現れるからです。これを知った今、その偉大な日が到来する前に私たちができる非常に貴重な奉仕があります。

## 洗礼者ヨハネの精神

私たちの時代の最後の数日間は、私たちが神への真の信仰を証明できる最後の機会です。メシアによる統治はすばらしいものになるでしょうが、私たちが今信仰を証明しないと、永久の人生を通じて後悔することになるでしょう。

私たちには、神は慈善心に富み友好的な方であると明言し、神に近づくための自信を人々に与えることで、神が到来される前にその評判を輝かしいものにする機会があります。

これこそが、洗礼者ヨハネがその奉仕において示された精神です。そして、ヨハネは女性から生まれたもっと偉大な男性だとイエスは宣言されましたが、彼を偉大にしたのはヨハネのメッセージでした。

「あなた方は**エホバの道を備えよ**<sup>[9]</sup>。その道路をまっすぐにせよ。谷間はみな埋められ、山と丘はみな平らにされねばならず、曲がったところはまっすぐな道に、でこぼこの所はなだらかな道にならねばならない。そして肉なる者はみな**神の救いの手だてを見る**であろう」

ルカによる福音書 3:4-6

同様に、神による神聖な救助の知らせは、誰もが耳にすることができ、神の奉仕の中で卓越したものに成長するのを見届けることが可能な貴重な知らせです。

## 機会の時

この種の基盤は後になってから取得することはできず、この時宜を得た天との友情の類のない利益は、将来に作り上げることはできないものです。信仰心の深いシメオンとアンナ、「東方の三賢者」や洗礼者ヨハネ自身など、我らが主の到来を予告する人たちに対して私たちが長いこと感嘆してきた精神は、今、私たちのものになり得ます。

---

9 イザヤ記 40:3-5。.. 日本聖書訳: 『主の道を備えよ』(原文(KJV))

これは極めてまれで神聖な特権であり、万能なる神と彼の息子の両方の歴史的な歓迎を準備するという、私たちに与えられた機会です。

イエスの描写にあるオイルランプを持った処女たちのように信者のたいまつ持ちによって明るくされた天が近づく道中で、私たちは輝きに満ちた壮観としてこの世界を天が目にすることができるように準備することができます。私たち独自の「アブラハムの信仰」により、彼が持っていたのと同じ次のような確信のことばを私たちは叫ぶでしょう。

### 真の人生とは神との友情である

私たちの場合、恐怖は崩壊し、私たちの確信は成長するでしょう…

…しかし天は奇跡を見届けるでしょう。あまりに不安定でおそろしい影響の下にある世界であるにもかかわらず、神の聖霊を歓迎する心、神の評判が世界中で美しく輝くようにすることで神による神聖な救助に対する地の序曲を創作した心を抑えることができませんでした。



# 補遺

神の意図の単純さは、進化、預言の研究や「唯一の真の宗教」による救済などの複雑さに比べて説得力がないように感じられるかもしれませんが。そのため、これらやその他の質問に対する答えは、[www.worshipJehovah.org](http://www.worshipJehovah.org) のページで付録として提供されています。

最期に、私たちの感謝を述べましょう。

万能なる神よ、

我らの天にまします父よ、

聖霊を通して神による神聖な救助の美しさと単純さを私たちに啓示してくださったことに感謝いたします。

アーメン



# 参考文献

聖書：ヘブライ人とキリスト教徒の聖なる書

ガイアの消え去る顔

ジェームス・ラブロック著 (Penguin Books, London 2010)

不都合な真実

アル・ゴア著 (Bloomsbury, London 2005)

世界規模の警告：Horizon スペシャル

－ BBC テレビのドキュメンタリー